

令和4年度
高松市障がい者アートリンク事業報告書
Artlink 2022-2023
TAKAMATSU ART LINK



HAL HEART
ART
LINK

高松市障がい者アートリンク事業 令和4年度報告書

障害福祉サービス事業所等に芸術家を派遣する事業

障害福祉サービス事業所等にアーティストを継続的に派遣する「高松市障がい者アートリンク事業」は、9年目を迎えました。
今年度は、16 か所の施設が参加し、絵画や美術、陶芸、ダンスや音楽パフォーマンスなど様々な表現活動が展開されました。

Contents 目次

	ごあいさつ 高松市長 大西秀人	0 2
	事業概要	0 3 - 0 4
LINK 01	特別寄稿 藤 浩志	0 5 - 0 6
LINK 02	多機能型事業所 ミルキーウェイ × 平川 めぐみ	0 7 - 0 8
LINK 03	障害福祉サービス事業所 かすがの里、あじさい × 渡邊 和二郎	0 9 - 1 0
LINK 04	障害福祉サービス事業所 パンジー V × アオイアツシ	1 1 - 1 2
LINK 05	障害福祉サービス事業所 ワークプラザ・たんぼぼ × アオイアツシ	1 3 - 1 4
LINK 06	障害福祉サービス事業所 クローバーハウスこがも × 山端 篤史	1 5 - 1 6
LINK 07	障害福祉サービス事業所 たんぼぼの家 × 山端 篤史	1 7 - 1 8
LINK 08	障害福祉サービス事業所 スマイルハートあすみ × 山端 篤史	1 9 - 2 0
LINK 09	障害福祉サービス事業所 ほのぼのワークハウス × 岩本 象一	2 1 - 2 2
LINK 10	障害福祉サービス事業所 朝日平成園 × 三木 優希・カタタチサト	2 3 - 2 4
LINK 11	児童発達支援・放課後等デイサービス いろは × カタタチサト	2 5 - 2 6
LINK 12	多機能型事業所 ぼだいじゅ × 千葉 尚実	2 7 - 2 8
LINK 13	障害福祉サービス事業所 サン × 千葉 尚実	2 9 - 3 0
LINK 14	障害者支援施設 ウインドヒル × 千葉 尚実	3 1 - 3 2
LINK 15	障害福祉サービス事業所 あゆみ園 × 南口 恵理	3 3 - 3 4
LINK 16	障害者支援施設 銀星の家 × 高松 明日香	3 5 - 3 6
LINK 17	障害福祉サービス事業所 ぎんせいワーク × 高松 明日香	3 7 - 3 8
LINK 18	高松市美術館ランチギャラリー合同展示風景	3 9 - 4 0
LINK 19	参加施設のスタッフからのメッセージ	4 1 - 4 4
LINK ∞	編集後記	4 5 - 4 6

ごあいさつ

Greetings



高松市長 大西 秀人

本市では、2010年、2013年の瀬戸内国際芸術祭に併せて開催した「高松アートリンクプロジェクト」を発展させ、アーティストを障害福祉サービス事業所等へ派遣することで、より多くの障がいのある人たちが、継続的に芸術活動に携わることができる「高松市障がい者アートリンク事業」を2014年から実施しており、本年度で9年目を迎えます。

いまだ新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中で、本事業においても感染防止対策を講じながら、過去最多となる16か所の障害福祉サービス事業所等へ10組のアーティストが出向き、活動の分散や工夫をしながら、絵画・音楽・ダンス・陶芸・製品加工・装飾等の創作活動を共に行いました。

また、本年度は、創作の傍ら、「アートで広がる インクルーシブな社会」をテーマに、アートリンク事業で生まれた作品や表現を、インクルーシブデザインとして商品デザインに反映させる取組を行いました。そして、2月22日から26日まで、市民交流プラザIKODE瓦町内アートステーション等で、報告展覧会を行うなど、地域社会との交流や障がい者理解の促進に取り組んでいるところでございます。

本市におきましては、「第6次高松市総合計画」において、「健やかにいきいきと暮らせるまち」を政策課題の柱の一つとして様々な施策に取り組むこととしており、中でも「障がい者アートリンク事業」は、本市ならではの特色ある事業と位置付けております。芸術活動を通じて、障がい者の感性・創造性を育み、自分らしく暮らせる福祉社会が形成されることを大いに期待しております。

今後とも、障がい者の積極的な社会参加の実現に向けて、本事業を推進してまいりたいと存じますので、なお一層の御理解、御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

アートはリミットを超える行為であり、新しい概念

Art is an Act of Transcending Existing Concepts and Creating New Values:

障がいのある人たちとアーティストが、多様で型に

People with disabilities and artists can create a diverse and unconventional world together.

アートで広がるインクルーシブな社会

インクルーシブとは、「すべてを包括・包摂する、包みこむ」ことです。障がいの有無や性別、性的志向、人種など、私たちには様々な「違い」があります。さまざまな違いを認め合い、すべての人がお互いの人権と尊厳を大事にして生きていける社会をインクルーシブ社会、あるいは共生社会とも言われます。どのような人も社会の一員として支え合いながら生き生きと暮らせる。障がいのある人もサポートされるだけの存在ではなく、環境さえ整えば、自身の能力を発揮することができます。では、その環境とは。

表現活動を通して可能性を開花させる

障害福祉サービス事業所にアーティストを継続的に派遣する「高松市障がい者アートリンク事業」では、絵画や造形、ダンスや音楽パフォーマンスなど様々な表現活動が展開されています。施設でのアートリンクは、ワンダーな瞬間、新しい発見の連続です。日常の動きがダンスになったり、繰り返しつづやく言葉から曲が生まれたり。アーティストと施設のメンバーの関わりは、教える・教えられるという関係ではなく、ワークショップ形式のフラットな立場でつながっていきます。それぞれに回数を重ねていくうちに、「自分の内から出る、何だかやりたいことを見してくれる人がいる」という安心や信頼、そして表現者としての自信が芽生えています。その瞬間こそが、アートの持つ不易な力が、私たちに「あるがままでいいんだよ」とそれぞれの価値が社会の中でつながっていくときであり、一人一人が社会に多様に関わり参画するという概念（full engagement society）が浸透していくとき。

アートリンク

本会は、2004 年度から、障がいのある人とアーティストがペアになり、約半年間関わりながら制作する「アートリンク・プロジェクト」を始めました。一人では創ったことがないことやモノを二人の世界観、関係性で作り上げ発表していきます。一人一人の個性やこだわりは様々です。アートリンクでは、その個性やこだわりを「その人だからこそ輝き」と捉えています。その後「アートリンク・プロジェクト」は米国フロリダ州セントピーターズバーグ市の NPO との国際交流事業へと発展。そして、セントピーターズバーグと姉妹都市である高松市でも、2010 年から瀬戸内国際芸術祭に伴い「アートリンク」を開催し、2014 年から「高松市障がい者アートリンク事業」として定着しました。2021 年には姉妹都市提携60周年事業にも参画しました。一人一人の文化芸術活動による地域創造です。

や価値を創造すること

はまらない世界を創り出していく

「間（あいだ）：時間・空間・人間（じんかん）」

多様性という言葉が、社会に馴染んできた今だからこそ、障がいのある人が生み出す世界観をいかに型にはめずに寛容に受け止めることができるかが問われていると感じています。

そもそも、「障害」とは人と人との間、社会に生じるもの。とすると、人と人との関係性、まさに「間（あいだ）」がおのずとテーマになってきたのです。

アートリンクで生み出される表現は、常に新しい概念を生み出しています。これを地域コミュニティに還元していくことで、それぞれの人が持つ可能性の発掘、オルタナティブな主体性形成が図られると。また、アートのもつ深遠な魅力が日常生活に反映されることにもなり、アートの価値を再認識できる。創造性には他者との関係性が絡んでおり、芸術文化でしか見えてこないつながりが、アートで可視化されていくのではないかと。各施設でのアートリンクで獲得した「まなざしの力」は、多様性を寛容に包括する力であると感じています。そして、分野を横断したソーシャル・インパクト（価値の共創）こそが必要不可欠であると考えています。

まちの未来をつくる

私たちは、現代社会では、かつてのようなモノにおいて成長を遂げるよりも、感性や魂の深さにおいて成長を遂げることが重要な意味を持っていると考え、人と人、人と地域、人と自然が交歓し、あらゆる側面のつながりを回復させることを活動のテーマと考えております。その鍵を握っているのがアートであり、そのポテンシャルをいかすことで新しい価値を創造できると。創造性の芽をもつ人、自由な発想をする人たちは、まさに根源的能動性をもっている人。一方、アーティストは、アートすることを広げる美の感覚をもつ人。詩人のジョン・キーツは、「ネガティブ・ケイパビリティ」という表現を使って、真実性の把握は、さまざまな世界に入り込む、あるいはさまざまなものが自分の中に入って来る経験で得られるとしています。共感しながら、アートの視点で関わることで創出できた魅力こそが、地域を生き生きと変えていく力です。私たちは、柔らかい感受性の高い寛容な成熟社会の創造を目指し、今後も活動していきたいと思っています。

最後になりましたが、この事業の実施に際し、お世話になりました関係者の皆様に心様から感謝申し上げます。

田野智子 (NPO 法人ハートアートリンク代表理事)

Link 01 藤 浩志 Fuji, Hiroshi



申し訳ございません。アートリンクの最近の活動、目撃していないんです。体験してません。僕がこんなところに場違いなテキストを書いているのでしょうか？たぶん、ズレるんだろうなあ。スベるんだろうなあ。でも、ズレが楽しいんです。スベることも面白い。何かをやろうとして、つい違うことになってしまう。それが楽しいんです。そこから予想もしていなかった何かが生まれます。これまで知らなかった何かが始まります。そのドキドキを楽しめる人が横にいてくれれば、もっとうれしい。知らなかった世界が目の前に広がります。その面白さをもっと多くの人と味わいたいし、楽しみたいのです。そのために生きています。生きてゆくのは難しい。僕らの周りには様々なバリアがあったり、超えてはいけないエリアがあったり。自分を縛りつける常識があって、視線があって、時々僕らを苦しめます。しかし、それを乗り越えた時、思いもよらない方法でスルスルっと飛び超えた時、大きなワクワクに包まれる時があるのです。「え？こんなことしていいの？」と恐る恐る顔を上げてみると……。「こんなこととしてはダメ！」僕を苦しめてきた不機嫌な顔がよぎります。憂鬱になりそうです。ところが、どうでしょう。なぜだか周りのみんなが楽しそう。喜んでいる。盛り上がっている。「いいんだ、これでいいんだ！」喜びを共に感じる人が隣にいることほど嬉しいことはありません。この時間を過ごせてよかった。生きててよかった。



一つの物事にはいろいろな面があります。見えない面、隠れている面、知らない面、苦しい面、楽しい面。丸は丸だと思っていたけど、それが四角だったり、長〜かったり、点だったり、顔だったり、太陽だったり、闇だったり、常識は崩れ、イメージは無限に広がります。そんな魔法のような柔らかい発想ができて、全てを受け入れて、何かを生み出して形にして、それをみんなに分けあって、楽しみ合える、そんな奇跡の人がいるのです。そんな人と遊びたい。そんな人と学びたい。そんな人と過ごしてみたい。そんな人と何ができるか。それがアートリンク？僕にとってのアートの意味は「超えてる有様」。アーティストはそんな「超えてる有様」を作り出そうとする人。アートリンクの活動は様々なアートがリンクする活動なのだと思います。アートリンクが作り出すところは、常識を超えた人が集まる場所で、全てを許し合えるところなのかもしれません。アートリンクの時間は束縛のないゆるやかな時間であってほしいと思います。まるで奇跡のような、特別の時間。宝物のような機会。そして、もっと超えることで、もっともっと知らない世界にリンクするに違いありません。勝手に期待をしてごめんなさい。皆さんなら許してくれますよね。

藤 浩志 (Fuji, Hiroshi) 美術家

1960 年鹿児島県生まれ。京都市立芸術大学在学中演劇に没頭した後、公共空間での表現を模索。同大学院修了後、パプアニューギニア国立芸術学校に勤務し原初表現と人類学に出会う。バブル崩壊期の土地再開発業者・都市計画事務所勤務を経て、土地と都市を学ぶ。「地域資源・適性技術・協力関係」を活用し地域社会に介入するプロジェクト型的美術表現を実践。取り壊される家の柱で作られた「101 匹のヤセ犬」、給料一ヶ月分のお米から始まる「お米のカエル物語」、家庭廃材を蓄積する「Vinyl Plastics Connection」、不要のおもちゃを活用した「Kaekko」「イザ！カエルキャラバン！」「Jurassic Plastic」、架空のキーパーソンを作る「藤島八十郎」、部室を作る「部室ビルダー」等。十和田市現代美術館館長を経て秋田公立美術大学教授、NPO 法人プラスアーツ副理事長、NPO 法人アーツセンターあきた理事長、秋田市文化創造館館長 <https://www.fujistudio.co>



平川 めぐみ／HIRAKAWA Megumi

香川県生まれ。服飾専門学校卒業後、大阪・東京でアパレルデザイナーを務め帰郷。香川の伝統織物「保多織」を使ったブランド「ツムギ」の企画デザインを行い、新しい世代に向け県内外のイベントにて保多織の持つ柔らかな風合いの魅力を広く伝える活動を独自に行う。その他、ダンスや演劇など舞台衣装の制作など、ジャンルにとらわれず衣服に関わる「素材」「布」「かたち」の可能性を追求する。



昨年度は、ミルキーウェイで日常的に作っているさをり織の布を使って各自で作った衣装を着用し、高松市美術館で撮影を行いました。「自分の手で作った自分のための衣装を着る」ということから派生していく自信や、内側から放たれる光のようなものを同じ時間を過ごす瞬間の中で、目には見えない言葉を超えた意思疎通が、確実にあったと感じています。

その経験を、背景を知らない多くの人に見える形にしたいと強く思ったのが今年度の活動展開のきっかけ。それは、魔法のような輝き、一人一人が主人公であり、それは障がいの有無にかかわらず人として何も変わることではない。装うことがその一端を担えたなら、大変うれしく思うのです。

今年度は、個人の持ち味を活かしながら完成度をどんどん上げて行きたいという狙いのもと、自分の衣装が完成したことをゼロ地点に戻し一たん遡って考えてみようと思いました。イメージを形に結びつけていくという視点を試すため、ヌードの人型を印刷した紙に、さをり織の布や雑誌の切り抜きなどをコラージュし、紙の上でデザインを完成させていくことから始めました。

自作の衣装を着用し、客観的にイメージしながら作ることは難しいので、一人一人に人型の人形（ラブリーリンちゃんと言う）を渡して、紙上のデザインと人体、服の構成を知っていくという過程を楽しみました。

さをりを使った衣装をまとった50体余りのリンちゃんが並ぶ姿は壮観！一連の流れがいつつながるその日まで。みんなと一緒に、大きな網に素材をたくさん結び付けて展示の装飾を制作。今年度報告展では、実際のライブパフォーマンスも行うということで、どうなることやら。とにかく楽しもうと思います。

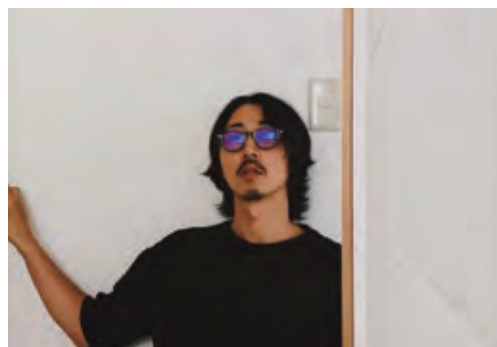
来年度は、さをりのモノとしての価値やイメージを高めていくことに注力していきたいと考えています。





渡邊 和三郎 / WATANABE Wasaburo

OOWETS オーウェッツ
香川県の海沿いにあるスタジオで、砂、木、水などの自然物や生活音とシンセサイザー、ギターなど多様な楽器などを用いて、心地の良いエレクトロニックミュージックを制作している。札幌国際芸術祭 2014「都市と自然のサウンドコンペディション」グランプリ受賞。
AMBUSH / 2022 の音楽や猪熊弦一郎現代美術館MIMOCA30周年映像への楽曲提供。
アルバム Wasaburo Watanabe 「Cycling」(2018)、OOWETS 「Life&Space」(2020)



ナザレの村でのアートリンク・芸術活動は2年目に入り、今回からは自分の本職でもある音楽制作をメンバー皆ですることになりました。

初めに、施設にある音を録音してリズムを作りました。文具や打楽器、部屋にある箱などを叩いたりして音を確認めるところから。

ミキサーで編集したリズムを感じて「あ〜」と声を重ねて録音したり、収録した音をみんなで聴きながら、「次はどうしようか?」と相談していると、自然とマイクを持ってラップをするメンバーが現れました。今日の仕事のこと、今度の休みにしたいことなど、即興で歌詞を作り見事に自分の思いをラップにしていました。

「カッコいい!!」と、他のメンバーもラップをしている人に触発されて「私もラップしたい!」と言い出し、フリースタイルのマイクリレーが始まりました。「お仕事頑張ります〜」とラップで言うと、何かカッコいい。そしてなぜか、歌詞に「ハワイ」や「非常階段」というフレーズが入る人がいて、聞いていると心地よくなっていました。

これが音楽チーム【ハワイ非常階段グループ】の結成の始まりです。毎回、施設に行くたびに新曲を作り、皆と楽しみながら音楽のレベルを上げていきました。徐々にそれぞれの個性も出てきて、自分の得意なことが分かってきます。

フリースタイル（即興）が得意だったり、歌詞を書くことが得意な人、応援が上手だったり個々の持ち味を生かして【ハワイ非常階段グループ】というグループは徐々に進み出したのです。ただ、楽しいだけではなく【ハワイ非常階段グループ】のチーム名を決めるときは皆で真剣に話し合い長い時間をかけてようやく決まりました。それぞれの思いがぶつかった濃厚な話し合いでした。

今回は、ダンスもしている新曲映像が出来上がったので、是非見てください。「待ってるぜ!」





アオイアツシ / AOI Atsushi

木版画家 / イラストレーター / デザイナー
主にドローイングや版画での作品制作をしている。また、その技術をいかしたワークショップ、アート系のイベントなどへ参加。その土地や人の特徴に合わせて、作品に反映させることを考え、地域の特産や特徴的な模様などを版画やハンコなどへ落とし込む。絵を描くことやデザインなどを通じて、人に対して自分は何ができるのか？考えることを大切にしている。



初めて担当する施設ということで、どんなことに興味があるのか？何が得意なのかも分からない状態でしたので、みんなが好きなこと、やりたいことを教えてもらうつもりで、木版画体験、毛糸で作るミノムシ、発泡スチロールのボールアイスに、水彩絵の具で和紙を染めたりなどなど。いろんなワークショップを用意しました。

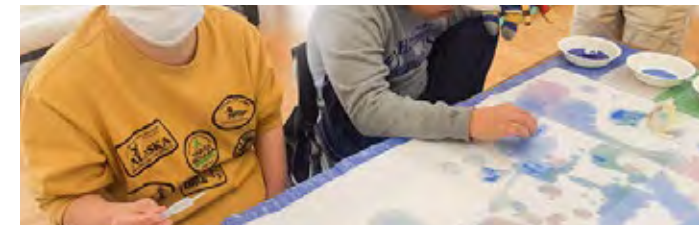
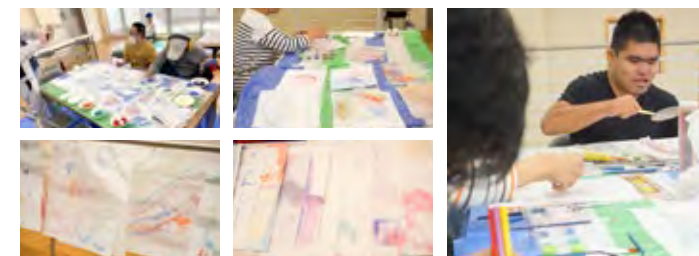
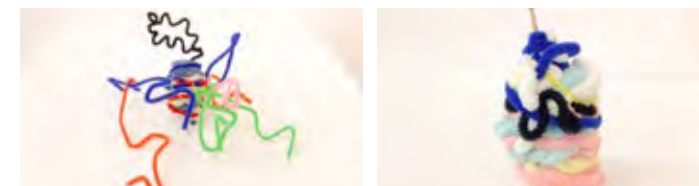
毛糸で作るミノムシは、コルクに毛糸をくるくると巻いていくもの。巻いても固く巻くことができずに、ほろほろと解けてしまう人もいましたが、「巻くというのは意外と難しいのかもね」と職員さん。丁寧にサポートをしてくださりながら、様々な作品が段々と仕上がっていきます。仕上がりが、ミノムシっぽく円錐状になるように、最初に爪楊枝を刺しましたが、逆に爪楊枝部分がみんなにとって持ちやすかったようで、ソフトクリームになったり、ホットドックになったり、なぜか主に食べ物が仕上がる方向へ。竹ひごに吊るして、ゆらゆらさせながら楽しむ予定でしたが、保管用に用意していた小さな紙コップに入れて、一つの作品に収まることとなりました。

作品を作り始めれば、みんなはこちらの準備したものを超えて、考えていなかった方法を編み出していき、まるで「こういうのはどう？」という問いに「いや、こっちの方がいいわ」と話をしているような感覚でした。

水彩絵の具で大きな紙を染めた時は、みんな楽しそうに「もう一枚！」と、止まらなくなるほど何枚も描きました。

はたまた、発泡スチロールのボールアイスを作る時は、手が止まってしまう人もいましたが、こうしたらどう？と声をかけながら、職員の皆さんと一緒に作品を仕上げていきます。

楽しくて一気に作品ができていく時のうれしさは何とも言えませんが、手が止まり一緒に悩む時間も、その人の得意や好きなことなど教えてくれる、とても有意義な時間となります。アートを通じて対話が成立し得ると感じた、そんな1年間でした。





アオイアツシ / AOI Atsushi



ワークプラザ・たんぽぽとの活動は、3年目。今年は、テーマを基にしりとりなどをしながらそれを絵にするゲームや、自分の好きな食べ物などを描いてみんなで発表することからスタート。

私が用意した「これをやろう」だけではなく、みんなから出てきた言葉などを元に一緒に作品を制作してみたいと考え、『私が準備をし過ぎないこと』と『話すこと』を大切にしました。

ある時、誰かが好きなうどんのメニューに関する話題を出しました。漠然とした「好きな食べ物」を聞くと、答えづらそうにしていた人もいましたが、「好きな天ぷらは？」のように具体的に、うどんに関連することに絞って聞くと、「とり天!」「ちくわ!」など止まらなくなってきました。ワークプラザ・たんぽぽでは、毎週水曜日にうどん店を営業し、利用者さん数名も関わっていますが、期せずして、全員のうどんへの愛の強さをぶつけられる結果となりました。

この話し合いを基に、「うどん屋の屋台」を制作していきます。

制作の際、印象に残ったのは、絵の具で塗った段ボールの板を、屋台本体に貼る作業をしていた時のこと。材料が途中で足りなくなり始めたため、私がみんなの輪の中から離れ、背中を向けて材料の追加分の用意をしていた。すると、段ボールの端を揃えながら貼る人、隙間がないようバランスを見ながら貼る人など、役割分担もいつの間にかできており、私が制作の輪の中に戻る頃にはしっかりとした「みんなの作品」が出来上がっていました。

私の想像を超えた精度と速さで作品作りが進んでいき、みんなが協調して作品を作っていく能力の高さに感動しました。

今年は特に、職員の皆さんにお願いすることも多かったのですが、積極的にアイデアを出し、十分なサポートをしてくださったことで、まだまだみんなの知らない部分が多くあると知ることができたように思います。一緒に作り上げることを意識した作品作りをこれからもできればと思います。





山端 篤史 / YAMABERI Atsushi

造形作家。香川県生まれ。2009 第 1 回香川県文化芸術新人賞受賞。2010、2013 瀬戸内国際芸術祭参加。様々な素材を使用し多岐にわたる表現を行う。内容も造形物も、その時々でのインスピレーションを核としていて、一見するとバラバラな表現にも見えるが、作品を媒介物と考えコミュニケーションを図る事を主旨に制作を行っている。



3年目。
今年こそはみんなでアートリンクを楽しむぞ！
意気込みは良かったが、やはり現実には厳しい。
でもでも！新型コロナ感染拡大の間隙を縫って、
ようやくみんなで活動できる機会が持てました。
うれしい！
みんなと直接活動できるのは素直にうれしい。

まずは、リヤカーのペイント。
昨年制作したものをリペイントして『コガモここにあり！』感を強めてしていきます。
ペイントしたのは真夏。日陰とはいえ暑い！
みんな思い思いの道具を持ち、感性に任せて好きな色で順番にペンキを塗ります。

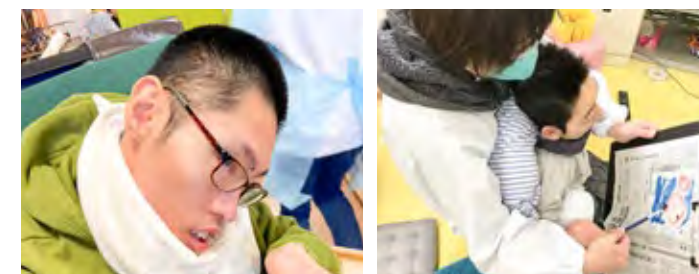
思いっきり派手なアクションで塗ったり、細い筆で丁寧に塗ったり、みんな汗だくで楽しんでくれました。「普段はこんなに集中力見せないのに今日はいいね～」とスタッフの方がおっしゃった一言がとても印象深かった。

そしてもう一作品
小さくカットした和紙に好きな絵を描いてもらいます。1人6枚。ちょっと多過ぎたかな・・・と思いましたがそんな事は吹っ飛ばくらい精力的に描いてくれました。

リヤカーのリペイント同様カラフルな作品たち。
描いた絵を並べて見るとさまざまな表現があって楽しい。これを全部貼って施設内に置くパーティションにします。
皆さんのカラフルな絵が毎日見える場所にあると、どんな時も元気が出ると思います。

なかなか対面活動が出来なかった中で、少しでも一緒に活動すればグッと距離が縮まり、今まで灰色がかった景色も、みんなの作品のように色鮮やかに見えてきます。

来年はもっと楽しもう！





山端 篤史 / YAMABERI Atsushi



今年7年目となる「たんぽぽの家」でのアートリンク活動。

昨年の獅子ダンスに関わったことがいい刺激になり、ミニ獅子を作りたい！ということで意見が一致！

張り子の経験と染色のスキルもいかせてどんな獅子になるかワクワク～。
たんぽぽの家のメンバーの皆さんいい個性を持っている。長ーい付き合いなのでそこはよく分かっている。

形を同じにすればそれぞれの個性が生きるかも。しかもバーっとやる勢いも、みんなあるので、獅子の顔を描くのをメインに作業を進めることに。張り子作業は慣れたもので、すったかたっーと進みます。経験が生きてる！

油単の藍染は培った年月が違う。いつ見ても素晴らしい出来栄え！経験が生きまくってる！そして、獅子頭の絵付けへ。

やっぱり個性強めです！一発勝負で思いっきり描いてくれました。みんなそれぞれいい顔。どこかほっこりとするのは、やはりここ「たんぽぽの家」の個性だなぁ～と、ひしひしと感ずることができました。耳つけて、毛つけて、竹の台に乗せてしつらえます。

ほんと、ここ何年かの集大成のような作品になったと思います。みんながんばった！最高です！ヤッター！！

・・・えっ？！なに？

もう一個作りたい？？

や、やりましょう。

これが、たんぽぽの家のパワー！です。





山端 篤史 / YAMABERI Atsushi



今年度から担当になった、あすみでのアートリンク。僕は新しい施設でのアートリンク初回は、決まって好きなものの絵を描いてもらいます。

この抽象的な内容を初めて会う人から投げられると、おおよそうまく描けないものです。それはお互いの関係性がまだ構築されてなく、素直な表現が出来にくいからだと思います。描いてもらった作品から今後のプランを考え、ゆっくり進めていくのが僕の定石です。

さて、ここあすみでもゆっくりとやっていこうかな、と始まった初回。

初めから驚かされたのは、制作のポテンシャルです。皆さん総じてうまい！「あれ？これはゆっくりとしている場合じゃないな…」あっという間に僕の定石はひっくり返されました。聞けば絵画は、ずっとたしなんできたとのこと。なるほど納得です。

そこからは、様々な素材に触れながら、少し高度なことも織り交ぜて、たくさんの作品を制作しました。作品を多く作るのには目的があり、出来た作品をベーカリーカフェに展示し、みんなに見てもらうためです。

見てもらう事によって作品が作り手の一方通行ではなく、見てくれる人との相互的な関係性をもたらしてくれます。パンを買いに来た人たちが「すごいな～」「キレイだな～」と関心を持ってくれると、作ったみんなも誇らしいと思います。

展示も含めた制作を1年通して出来た事はアートリンクの新しいモデルケースになったのではと思います。

それもこれもみんなのポテンシャルあってこそ。まだまだいい作品が出来そうな予感しかない！！





障害福祉サービス事業所 ほのぼのワークハウス × 岩本 象一

岩本 象一 / IWAMOTO Shouichi

音楽家。1981年 兵庫県神戸市生まれ。インドネシア留学を経て 2010 年から岡山県在住。Okayama Javanese Gamelan Class 主宰。国内外でパフォーマンスやワークショップを行う一方、様々な音作品や映像作品を発表するなど形式にとらわれない創作活動をしている。



ほのぼのワークハウスとの音楽活動は本年度で9年目を迎えます。

これまで、皆で作詞作曲を積み重ねた結果、数々のオリジナル曲が誕生しました。今年度の活動としては、メンバーの入れ替わりに伴い演奏可能な曲やパート編成を模索しつつ、そしてその関わりの中から生まれてくるものを拾い上げ創作活動につなげていきました。本年度では新たなレパートリーが2曲加わっています。

ベテランのメンバーから発せられた”音楽になりたいです”という言葉を目にした最新曲はガムランでメロディーを作っていました。歌詞はタイトルの中にある言葉のみを使うアナグラム方式で作っています。例えば”ナイスデス、ナニナリタイ、イタイナ、ニイガタ、ガタガタ”など、皆の言葉を連ねていくと想像力を掻き立てられる歌詞が出来上がりました。

また新メンバーの溢れる個性により大きく開花したこの曲は、ラップや体の動き、そして打ち込みのリズムが躍動する独創的な音楽に仕上がっています。もう一つは”デコトラのワルツ”という以前作りかけていた曲のリメイク版です。

大型トラックにまつわる言葉で歌詞が成り立っていて、当初エリック・ドルフィーから着想を得て編曲したものの長い間寝かせていたらジャズ色が消えアシッドフォークのようになりました。往年のメンバー1人がメインで歌うこの曲はタイトルの勇ましさと裏腹に落ち着いた雰囲気となり今ある曲の中では際立って静かな曲となりました。こうした活動の中でメンバー構成によって変化する音楽の面白さ、メンバーそれぞれが秘めている可能性を改めて感じています。

また本年度はコロナ禍により下火になっていたライブ活動が復活した年でもありました。小学校でのワークショップ＆コンサートや様々なイベントでの演奏など数々の舞台をこなしました。演奏後に皆共通して感じていたのは、やはりライブは最高に気持ち良いなということです。刹那の音を人々と共有するという日常が尊く感じられる一年となりました。

※エリック・ドルフィー：1960年代に活躍したアメリカ合衆国のジャズミュージシャン。

※アシッドフォーク：内省的で異世界へいざなうかのような響きを持つフォークソング。



三木 優希 / MIKI yuki

野外演劇、現代サーカスの実験劇場、劇団への振付、音楽 LIVE パフォーマンスなど幅広く関わる。また Eclogion として、重要文化財の米蔵にて作品を上演、生演奏での舞台やパフォーマンスなどを企画演出している。ダンサーとして星屑ロケットーズにて各地の公演に参加。現在芸術士®として活動中。企業との共同開発で、体操教室のプログラムを担当している。高松ワークショップLab.では、WSを開発したり保育士向けや老若男女問わず参加できる、市民還元型のWSを行っている。

mikiyuki→<http://mikiyuki-eclogion-voyage-no.jimdofree.com/>
Eclogion→<https://voyageno01yuki.wixsite.com/eclogion>



カタタチサト / KATATA Chisato



今年から Yummydance に代わり、朝日平成園と一っしょに1年間踊ってきました。まだまだコロナの波は収まらず、オンラインでの活動をすることもありましたが、施設の方の御協力もあり、途切れず、みんなとコミュニケーションを取ることができました。初めてみんなに会う前は、Yummydance と朝日平成園が作ってきた8年間を引き継ぎことへの「重さ」のようなものも感じていましたが、いざ施設でみんなと会うと、その8年間の素敵な時間が、みんなの体に「表現」として染み込んでいて、安心感と共に少し感動のような感覚もありました。

初めましての挨拶はやっぱり踊りでセッションしてみるから。出てくる動きが本当におもしろくて、身体の記憶の走馬灯をみているような、今までのみんなが過ごした時間のダンスを見ることができ、既に作品を見ているような感覚になりました。そして、去年パフォーマンスが出来なかった獅子舞も今年はリベンジできたらと、作品へ組み込んで見ることもチャレンジしてみました。

みんなのコミュニケーションの純粹さや、個々の表現の違いのおもしろさなど、大事なものをそのままに、そして「なんとなくみんな」にならない個々に対する振付にしたいなと感じました。

テーマなどはみんなとの話がどんどん膨らんで、移動できない時代でも何だか旅行しているような気分で、そしてみんなそれぞれの世界を巡っていくような作品になればと、みんなから出てくるものをきっかけにし、大事にしながらどんどん整理していくような作り方とってみました。普通に作品を作るのと同様にみんなへ投げかけますが、帰ってくるものがおもしろく、作品作りに関しては不自由なことは全くなく、単純に良いと思うものが拾い集められていく、尊い時間になりました。

車いすが飛行機の座席になったり、日常の会話が踊りになったり、遊んだ体がシーンになったり。獅子舞が乗り物になり、命を運んで行きます。宇宙や月面まで想像でどこへでも飛んでいけます。

みんながみたい世界へ、いざ！ダンストリップ！！
いろんなダンスをお土産にして、お客さんへも渡せたらと思います。



カタタチサト／KATATA Chisato

ダンサー・演出家・ファシリテーター。
舞踏とモダンダンスを基礎に持つコンテンポラリーダンサー。約 20 年のキャリアを持ち、踊りだすと何でもない空間をたちまち異世界に変える存在感は、国内・海外でも高い評価を得た。舞台出演・振付・演出も行い、主宰する DanceBonBon では、他ジャンルアーティストとのコラボレーションを得意とし、風景まるごとアートパフォーマンスになるような SHOW やワークショップ、訪れた人が自然に起こした行動が舞台作品につながっていく舞台公演など、類を見ない劇的空間を創りだす。



今年初めての子どもたちとの活動。それぞれがどんな表現方法を好きなのかも知りません。

「まずはからだからだ！」と、音楽で踊ったり、思い付いたテーマを動いてみたり、いろんな素材を出して好きに過ごしたり、みんなと、とことん遊んでみました。

最初のうちは、「苦手かも…」と本人が思っていることには取り組まない様子だった子も、だんだん提案に対してアートレスポンスをくれ始め、自分が想像・創造したことが次の何かにつながっていくんだなって感覚を持ってトライして没入している姿も見られるようになりました。

学校が休みで連続して行けるシーズンには、「からだ遊びはいつものチューニング」「この形は何に見えるかハメ描く」「いろんな自分の写真を撮ってみる」「自分にしか見えないものを布をかぶって踊る」など同時多発してみました。

「飛んでる自分」の写真が恐竜やケーキやフランケンシュタインに変わっていく週、「好きなものに囲まれてる顔／おいしい〜の顔／オエーッな顔」でお腹を抱えて笑い合う週、「カタタンはここに貼ってあげるよ」と商店街の天井ドームに浮かせてくれたり、進みながら恐竜の足跡を自分の足の周りに描いていく姿を見たり、そういう時間がある時大きな一枚になって。これを壁に貼って、その前で布で踊ろうってみんなと思いついた。

「どこに貼る？」そのままの大きさで貼れる壁にはカラフルな壁紙があります。「どう言うかな？」と待っていたら「絵が見えなくなる」「色にタッチできない」「こっちに横にして貼ったらいい」「そうしたらいいと思っていたから僕はこっち向きに貼ったの」というわけで、いろはのお部屋の壁紙も、小さなみんなの大好きやオエーやおいしいが詰まった大きな紙とコラージュされるように貼ることにしました。

他のアートリンク施設で作られた大きな布、ラップ調の音楽も、いろはの活動とコラボレーション♪ 勢いよく表現するみんな！色んなアクションやダンスの種が生まれてきます。喜びとエネルギーと交感に満ちあふれて眩しかったです！





千葉 尚実 / CHIBA Naomi

美術家。1979 年香川県生まれ。
2002 年大阪芸術大学卒業。平面、立体、イン
スタレーションなど様々な素材、手法で私
的な出来事やそこから来る心象などをモチ
ーフに制作している。また、最近では映像作品
や場作りなど、他者の介入により自分のコン
トロールや想像と違うことが起こっていく面白
さを感じている。



ぼだいじゅに来るようになって 2 年目になり、
何となくみんなの個性が分かってきたな、と思っ
ていた所にニューカマーが現れました。今年から
参加してくれた O さんです。ゆっくりですが、
いつも最後まで諦めずに作品作りに取り組んでく
れます。形と色使いが抜群で、毎回感心させられます。
絵を描くのが好きな気持ちが伝わってきます。

今年はいろんな素材を試してみようと思い、折り
紙や、秋には葉っぱなどでも絵を描いてみました。
普段余りハサミを触ることがない方でも、使うと
すごく上手だったり、切ったり紙や落ち葉をち
ぎる感覚が楽しそう。出来上がった作品にはそ
ういう気持ちが画用紙からはみ出るほどに溢れてい
るな、と感じました。

2月の報告展に向けて、木の切れ端に色を塗ったり
絵を描いて、それらをくっ付けてオブジェを作り
ました。
普段平面の絵を描いているので、それが立方体にな
ったらどうなるかしらと思ったからでした。
木のかけらを渡すと4面に人型を描いて上と下も
人の頭と足をかいている方がいて「ほほう」、と
うなりました。

ぼだいじゅのメンバーは、綺麗な色を選ぶ人が多
くて、出来たオブジェを乾かすために並べている
だけでも綺麗で、「絵になるなあ」と思いました。





千葉 尚実 / CHIBA Naomi ↓



サンのメンバーから、私がやっているバッグブランドとのコラボ（布に直接絵を描いて貰って一点物のバッグを作るプロダクト）に Yさんと Aさんが参加してくれました。

Yさんの前に大きい布を広げると、「この布は誰にも渡さない、今日中に自分が全部描き切るんだ」と言わんばかりの気迫で、1時間ほどで大きい布がほぼ埋まってしまいました。

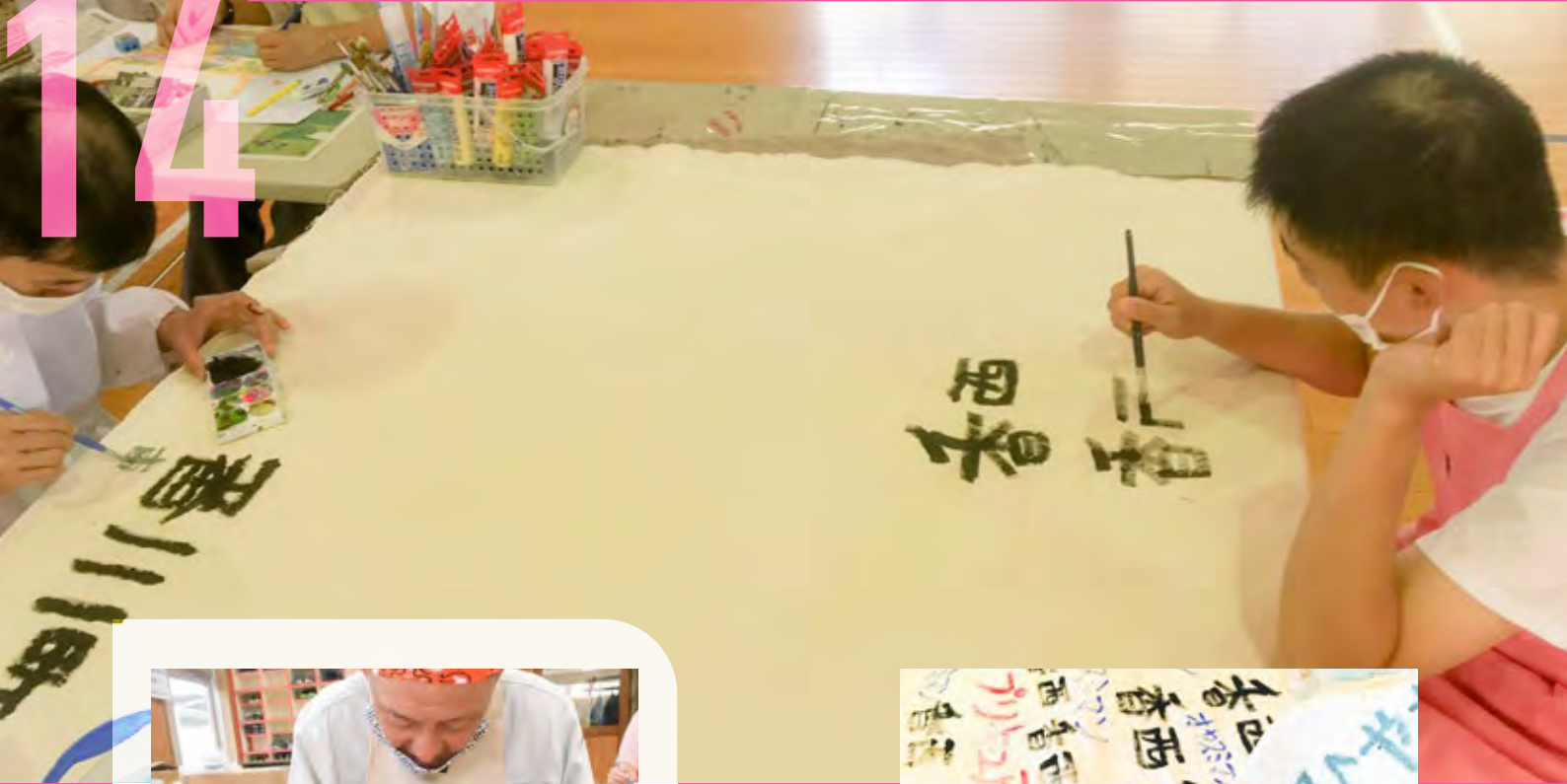
Yさんはいつもアートリンクの時間を楽しみにしてくれて、「来月は〇日にアートリンクありますよね～」と私が覚えてない来月の予定も覚えています。最後の挨拶の後には「ありがとうございます～」と政治家ばりの熱烈な握手で締めくくることが恒例となっています。

Aさんは久しぶりにアートリンクに参加してくれたのですが、布を置くとためらうことなく文字を書き出しました。「トコボール」「ホルト作業」などと書かれた文字が最初は何のことか分からなかったのですが、「ドラゴンボール」「ボルト作業」など Aさんが好きなものを書いているんだと分かりました。絶妙に少し違って、何と素敵！私は彼の書く文字が好きです。

今年度も、いつもはカフェで働いているメンバーたちが参加してくれました。カフェで働く彼らとは、年2回だけの活動ですが、3年目にもなると、だんだん顔見知りになって、普段偶然会った時でも雑談するようになってきました。「今日もアイドルの写真持ってきたの?」「もちろんですよ!」と、会話が楽しい。

木の破片に絵を描いた時には、最初はみんな色を塗るだけだったので、時間内に絵画作品は仕上がるのかしらと思ったのですが、それぞれ仕上げて、最後に「楽しかった!」とわざわざ伝えにきてくれる人もいて、こちらもうれしくなりました。





千葉 尚実 / CHIBA Naomi ↓



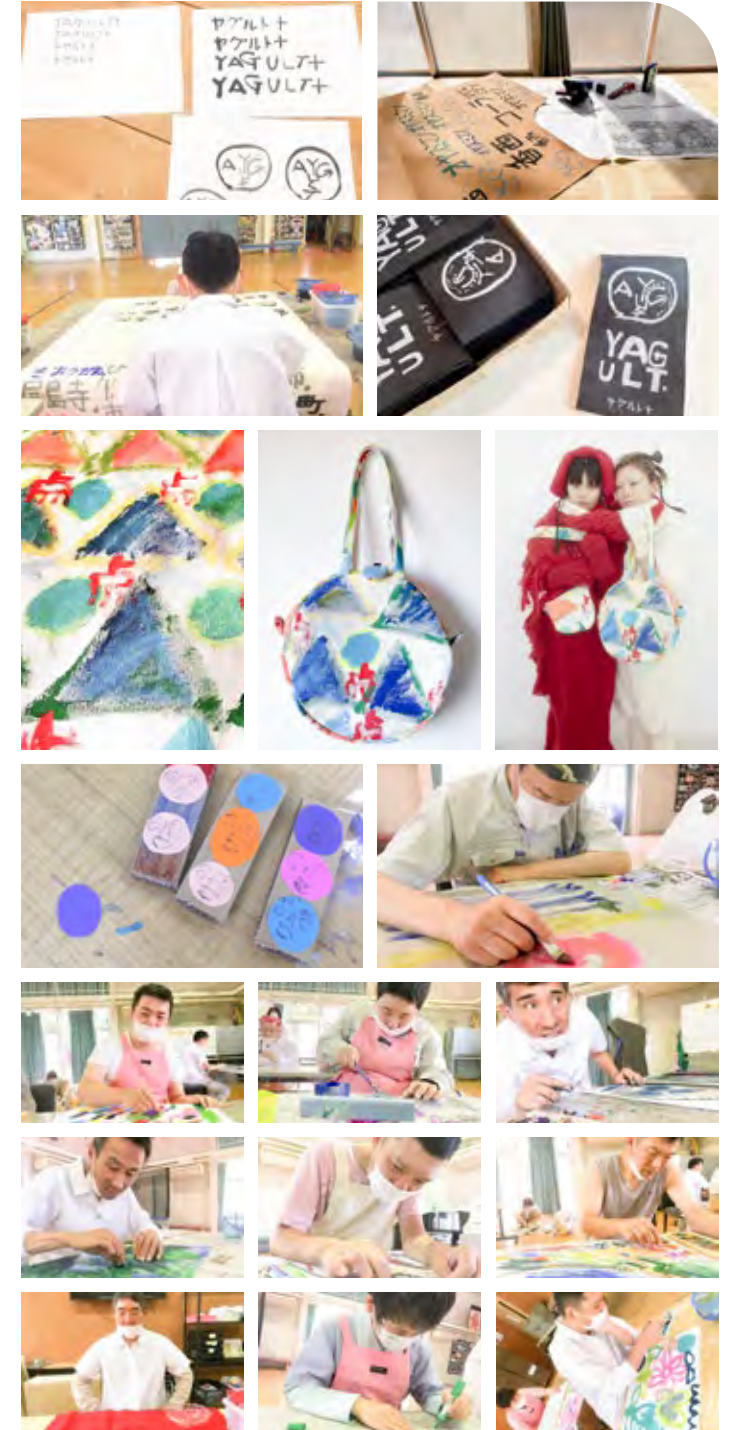
これまでのアートリンクでは、カメラマンやミュージシャンなど様々な人に関わってもらって作品やグッズなど作ってきましたが、今年は私がやっているバッグブランドとコラボする事になりました。少し前から温めていたことだったのですが、利用者の方に布に直接絵を描いてもらい、そこから一点物のバッグを作るというプロダクトラインです。

今年度は、他の助成企画もあり、メンバーに描いてもらったブランドロゴからタグのデザインが出来ました。そして出来上がったバッグを携えて、モデルさんとの撮影にも挑みました。バッグブランドはまだ出来たばかりですが、これから継続していけるように展開を考えています。

F さんが布に絵を描いている時、センス良く三角とか丸をパターン化してカラフルな布が出来上がっていました。最後に漢字の「点」と言う文字をたくさん描いていたので、「これはどういう意味でしょうかね？」と職員さんに聞いてみると、「千葉さん、F さんに点描いてって言いませんでした？」と言われて。そういえば、「この隙間に、点々描いてみて。」と、言ったのを思い出しました。彼は、ただ素直に点を漢字で描いてくれていたのです。思ってもみなかったけど、それがいいポイントになって素敵なバッグに仕上がりました。

頼れるお兄さんの存在の M さんはとても丁寧。丁寧すぎて紙を渡してもなかなか絵が進まない。けど、その丁寧さゆえに何度も重ねられた鉛筆の小さな絵が独特で素晴らしいなと感じるので、もっと描いて欲しいと思うのだけれど。なかなか進まない。ある時、小さく丸に切った折り紙を渡して、顔を描いてもらったら、いつもの何倍ものペースで顔が出来てきて驚いた。

もしかして、大きな紙だと、どこに描いたらいいのか、顔の輪郭はどうしたらいいのか分からなかったのかも、と思いました。





南口 恵理 / MINAMIGUCHI Eri

1985 年三重県生まれの転勤族。3 歳よりクラシックバイオリンを始め、現N響コンサートマスターに幼少期に師事。高知大学入学をきっかけに、ギターとドラムでバンド活動を始める。ヨーロッパツアーや台湾ツアー、県立美術館で開催されたインドネシア伝統文化・紙人形劇での音楽担当、演劇での生演奏担当など、文化・芸術の分野で幅広く活動中、技術・表現力ともに共演者からの評価が高い。ミュージシャンとしても数々のオファーを受け、本職の左官職人としてもキャリアを積んでいる。2021 年より親子むけ教室「あそびアート教室」を任意団体として設立し活動を広げている。



今年からあゆみ園にお世話になり、アートリンクでの初めての関わりが始まりました。

私は普段、音楽活動と左官職人として生活しているので、常に「形のある作品を作る」というアーティストではない、と思っていました。

ですが、アートリンクの活動に関わり、今回の制作展を前に、私自身何かを作ったりするのは好きで、大学時代には友人とグループ展などで絵や造形物を展示していたなと思い出しました。

あゆみ園の活動に参加してくれている方たちの欲のない作品制作を見ていると、純粋に絵を描く楽しさや、色をひたすら塗り続ける開放感や気持ち良さを思い出させてもらい、園に行くたびにとても心が浄化される気持ちになります。

そして、職員の皆さんと一緒に参加して、活動にとても熱心に関わってくださり、私も周りの皆様に教えられ支えられながら活動をさせてもらっています。

まだ関わり始めて間もないので、今は参加してくれる方たちの得意なことや好きなことを探しながら、いろいろな制作をしています。

打ち解けてくれた方や、まだまだ人見知り中の方もいる中で、素敵な作品たちが出来上がるのを見て、活動に行く度に私も新しい発見があります。

今回、展示に向けての作品は木や森をイメージして制作していきしました。あゆみ園の周りには緑が多く、日当たりや空気の流れが気持ちいい場所だなど、初めて園に行った日に思ったのがきっかけです。

そんな園の中で、明るくそれぞれの個性を伸び伸び出せているメンバーの皆さんのウヒャウヒャをもっと形にしていけたらいいと思います。





高松 明日香 / TAKAMATSU Asuka

画家。1984年香川県出身。2009年尾道市立大学大学院美術研究科修了。主な展覧会に2021年「シェル美術賞アーティスト・セレクション 2021」(国立新美術館・東京)がある。2014年岡山県新進美術家育成「I氏賞」大賞受賞。2016年四国こどもとおとなの医療センター(香川)にて検査科待合室の壁画を制作。

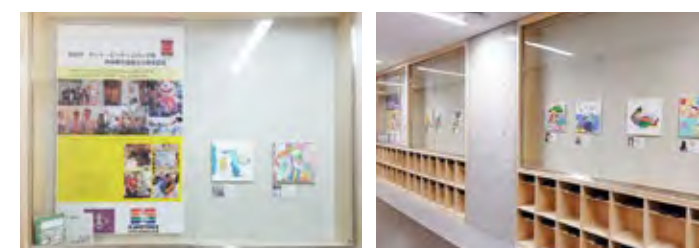
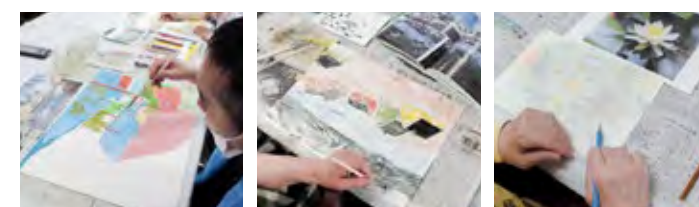
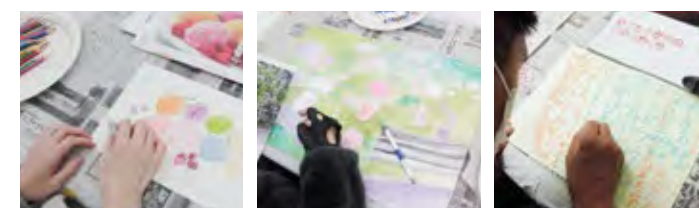
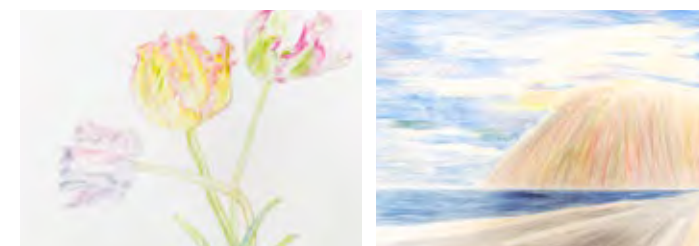
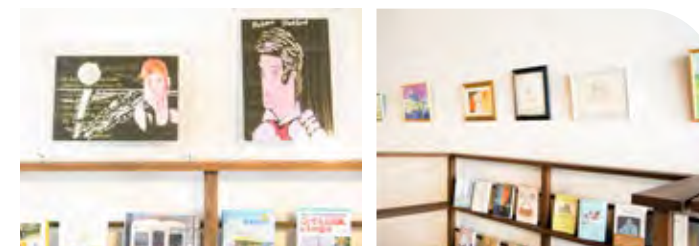


今年度も絵画作品を中心に、皆さんと作品制作をしました。それぞれの方が、「いままで花を描いたことがなかったから、描いてみたい。」「風景を描いてみたい。」「色鉛筆を使って複雑な色合いを表現したい。」「花を繰り返し描いてきたけれど、次は他の種類の花も描いてみたいと思う。」「かわいいものを描いてみたい。」など、各自の目標に沿ったモチーフを一緒に選びました。また、新しく入所された方も参加していただき、その方がどんなことに興味があるのかを少しずつ知ることができる機会がありました。

風景に初めて挑戦された方は、鉛筆だけで風景の中にある建物を描き出し、定規などを使用しながら建物の直線を意識して仕上げました。鉛筆のシャープさと建物の静謐な雰囲気が非常に合致している作品です。制作中はモチーフ写真を見つめては、画用紙に向かって黙々と制作されています。以前色を付けることで消えてしまっていた鉛筆の線をそのまま残して白黒の鉛筆画作品にする、というアイデアは、制作風景を見に来てくださった職員さんや周りの参加者の方が話してくださった作品の感想を元に、御本人が判断されました。皆さんと一緒に制作をする、ということの醍醐味を感じた出来事でした。

今年度は様々な方に御協力を頂いて、高松市にあるカフェや病院での作品展示が実現しました。報告展以外で皆さんの作品を展示することは初めてでしたので、この活動がどのようなものなのかを外部の方に説明し、今まで制作してきた作品の中からその展示場所に合う作品を選定・展示をすることを通じて、自分も客観的に皆さんの作品と向かい合うことができ、各自の作品変遷もたどることができました。絵画という作品形態を取ることで、時間と場所を越えて皆さんの作品を紹介できる魅力がこの展覧会から感じました。

繰り返し制作していくことで、また新たに生まれる表現と出会いがあるのだと感じる一年になりました。





高松 明日香 / TAKAMATSU Asuka

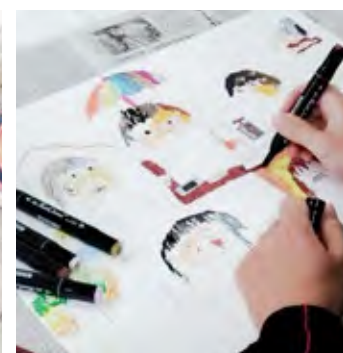
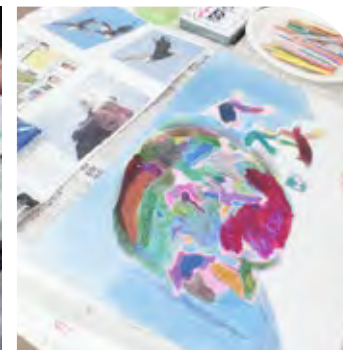


今年度も絵を描くことを中心に、粘土や様々な形のキャンバス、色紙などを使用しながら作品を制作しました。新しく参加された方や、実習期間中に飛び入りで参加してくださった方もいて、アートリンクを通じてその方がどのようなことに興味を持たれているのかを、職員さんと一緒に知ることができました。

初めて参加され、モチーフ選びから非常にこだわって制作された方は、それを自分が絵にすることができるのか、実験的に下書きをして判断していました。何枚かの下書の後、これだという風景のモチーフが見つかり、キャンバスに制作が始まりました。もうそろそろ完成が近づいたころ、「空の色をもっと明るくしたい」、「砂浜の色合いや向こうに見える島の色を写真に近づけたい」と、目標を話しながら色鉛筆で少しずつ色を重ねたり、薄く溶いた絵具を塗り重ねることで色の変化を出したりと、非常にこだわりながら、気が付けば半年以上、1枚の作品に集中して制作をしました。次は同じモチーフを別の形のキャンバスに描こうと、新しい制作に向かっていきます。

「チーズを描いてみたい。」という方のためにチーズのモチーフ写真を準備したときのこと。選んだ写真を見ながら絵を描いても何か違うという様子で、手が止まっていました。そこで、色付きの小麦粘土を使ってもらったところ、その粘土を使ってチーズを作り、新たな作品が生まれました。その後、小麦粘土ブームはほかの参加者の方にも広がり、これまでずっとペンで人物を描いていた方の人物画が半立体作品に変貌しました。次は集中して立体作品制作のための準備をしていきたいと計画しています。

ぎんせいワークと銀星の家の皆さんの作品と、私の作品と一緒に高松丸亀町商店街にある高松市美術館ランチギャラリーで合同展示をしました。いつか実現してみたいと願っていた計画で、多くの方にご協力いただき実行することができました。皆さんの作品のエネルギーは、きっと絵の前を通った人たちに伝わっていると感じる展覧会ができました。





Link 12施設スタッフメッセージ

ミルキーウェイ / ニューエン ちあき

今年度は主に布や網を使い衣裳を作る活動を1年通して取り組みました。雑誌を切り抜いて紙に貼ったり、イメージした中で、人形にさをりの端切れやトイレットペーパーを使い実践的に人形や人に衣裳を着せました。衣裳作りの中で大きな布を広げ、スプレーやペンキ等普段使わない物を利用し絵を描いたり、網に毛糸やリボンを自由に手や針を使い慣れない手つきで利用者さんは縫っていました。「大きな布や網が何になるんだろう」とワクワクした気持ちで取り組んでいました。針に糸が通らなかったり、自分たちの思っているように縫えないのか支援員に「助けて」という利用者もいましたが、お互い助け合いながら、利用者さんの手により思い出や記念に残る心のこもった作品を作る事ができました。ミルキーウェイはさをりをを中心に活動しており、これを通じてますます日常の活動が発展していくことを願っています。



かすがの里 / 渡邊 暢也

渡邊アーティストとの活動も2年目を迎え、今年度は切り絵等の創作から楽曲作りに取り組んできました。一つの楽曲となるまでのプロセスは参加する皆さんも最初はわからない状態でしたが、日々過ごしている場所にあるものを使った音や生活音など、普段から身近に耳にする音や声を渡邊アーティストの軽快なリズムに乗せて自由に紡ぎ、活動を繰り返す度にその楽曲が進化していくことに皆がとても喜びを感じました。そして、最初は手探りであったものが徐々に形を成していくことで、皆さんの心境にも変化が生まれ出していくと、それぞれの思いや意見、希望が聞かれ出しはじめ、活動に向けて自分で歌詞を考えてきたり、新しい振付けも休み時間に練習をするようにもなっていました。そうして曲のイメージが完成していくと、より活動を楽しみにするようになり、アーティストの来訪を待ちにするようになっていました。皆さん固有のイメージやできることを発揮し、日頃の作業の中だけでは見られない一面を見ることのできる機会となっていること、これからも皆さんの様々な可能性を信じていきたいと思います。

パンジーV / 萬木 一郎

アートリンクに参加してはや3年が過ぎました。少人数からスタートしたパンジーVですが、今年度は29名になりました。これまでの2年は色々な素材を使って平面や立体を作ってきました。アートリンクの時間も当事者が「アートリンク、何作るんやろ」と言うようになり、パンジーVの年中活動の一つとして定着しています。今年から、新しい先生のアオイアツシさんに代わったので、当事者はドキドキ興味津々で初日を迎えました。前任の山端先生とは、また違う方法で、一瞬で当事者の緊張を取り除き、優しい作業で当事者の色彩豊かな感性を引き出しました。大きな紙に色々なインクを筆で書いたり滲ましたり、インクを飛ばしたりして描いた絵を満足そうに語ったり、みんなに見せたりしていました。一人一人が自分の時間を楽しんでいるように思います。このような自由に感性と向き合える時間は貴重です。アオイアツシ先生、これからもよろしくお願いします。

たんぼぼの家 / 橘 朱実

今年度は、昨年度の他の事業所の方と一緒に作った獅子が、素晴らしかったので、たんぼぼの家の獅子に取り組むことになりました。もちろん、講師は山端先生です。一番難しいのが獅子頭で皆さんがどうしたら一番作りやすいか、山端先生が試行錯誤して下さり発泡スチロールで原型を作り、その上に習字紙を貼って張り子で作ることになりました。胴体は藍染め、草木染の布で。もちろん、台は竹です。みなさん張り子で作るのは、去年から3体（猫、寅、獅子）めなので、もうお手の物です。早速、習字紙をビリビリ、のりをペタペタ。あっという間に原型がなくなっていくきます。「山端先生、これ大丈夫ですか、獅子になりますか」先生いわく「色塗りして顔を書けば大丈夫」・・・獅子になりました。胴体作りはお手の物、藍、ハーブ、マリーゴールド、等々。竹も山から切り出し、ドリルで模様を付けました。紙、ハーブ、花、藍、竹と自然の物をたくさん使った、たんぼぼの家の獅子になりました。来年度も山端先生と共に張り子にチャレンジしていきたいと思います。

ワークプラザたんぼぼ / 早川 和弘

アートリンク事業参加8年目、そしてアオイ先生と3年目のアートリンク活動となりました。アオイ先生のアイデアや仕掛けによって、利用者さんは、それぞれの強みを、生かした方法で、楽しく参加することができ、ワークプラザ・たんぼぼにとって、なくてはならない楽しい時間となっています。今年度前半は、日常生活で使うことのできる物を作るというコンセプトで、利用者さんの特性、個性を生かしたデザイン・キャラクターを生み出す活動でした。利用者さんの個性的な文字、貼り絵、独自の絵、それと「たんぼぼ」をイメージしてみんなが自由に描いたものを組み合わせて、デザイン化されました。それが事業所のうどん営業「たんぼぼ。うどん」で実際に使える暖簾、のぼり、フロアシートとなりました。後半はうどん店の屋台を段ボールで作りました。組み立てることができる小さな部品の一つ一つに利用者さんが思い思いに色付けし、メニュー板に字を書き、粘土で天ぷらを作り、毛糸がうどんに変わり、とても楽しく、かわいいうどんが完成しました。毎回、とても温かく、柔らかで、笑顔いっぱいに、利用者さんが自信を持って取り組める時間を提供してくださったアオイ先生、関係者の皆様、本当にありがとうございました。

スマイルハートあすみ / 大塚 盛也

今年度は造形作品の制作ということで、今までとは全く違った体験が出来ました。毎回、異なるものを作っていくので、利用者さんも創作意欲が沸きます。紙粘土を直接触り、個々のイメージで形にしたり、色を付ける等、作っていく過程を楽しんでいました。一人一人の個性が形になって現れるのは、見ている職員もうれしくなります。自分の作った作品を展示し、皆で品評するのも楽しそうでした。今回、様々なアイデアを持ってきていただいた山端先生には感謝いたします。活動を通して、利用者さんの笑顔が沢山見られたことが何よりです。物作りって楽しいですね。

こがも / 田中 美帆

「先生、こんなのかな？こういうことしてみたいのだけど…」と夢を膨らませ、こちらが好き勝手に色々な提案をすると、それらを全て大らかに受け止めてくださり、「こういう形であれば、出来そう！」夢を形に実現してくださる山端先生。今年度もたくさんの無茶振りをしてしまいましたが、おかげで利用者さんも職員もとても楽しく芸術活動に触れ、楽しむことができました。今年度は、昨年度制作したリヤカーに付けるのぼりや、和紙を使った衝立を制作しました。慎重に筆を置く人、ダイナミックに描く人、色使いや筆のタッチも様々で、それぞれの個性が光り、側でサポートする職員も心が躍ります。こがもの日常の中に「皆で作ったね」「ここ、私が塗ったよ」と話せるエピソードのある作品があることがとてもうれしく、日常を彩ってくれていると感じます。来年度は、どんな夢が形になるのか楽しみです。来年度もどうぞよろしくお願いします。

ほのぼのワークハウス / 藤田 裕子

「音楽になりたいです」この曲の始まりは象さんが「夢」について質問したことでした。行きたい国、やりたいこと、会いたい人をメンバーが黒板に自由に書いていく中で、祐香さんが書いた「音楽になりたいです」。何やら深い意味が隠されているような気がしませんか。ほのぼのワークハウスの音楽づくりはいつもこのような、ひととき輝く不思議な言葉から始まります。私たちはいろいろな楽器を使います。曲が変わると担当する楽器も変わりますが、メンバーは自分が使う楽器を忘れることはありません。曲が変わると間違えることなく楽器を持ちかえ、演奏をします。それは誰かに強制されているのではなく、一人一人が主体的に音楽活動に取り組んでいるからです。不思議な言葉が並び、聴く人によって意味が変わる私たちの音楽。誰にも強制されず、変化することを許され、自由で柔軟な『音楽』のように、私たちはなりたい。



朝日平成園 / 後藤 健児

今年度から、新たにカタタチサト様とミキユキ様のお二方をダンス講師に迎え、新生朝日平成園のアートリンクダンスがスタートしました。始まった当初は、利用者様もなかなか新しい先生にドキドキ、モジモジ・・・、講師の方々もどのようなレッスンを行ってあげればいいのか、お互いに手探りで、遠慮がちな部分が見受けられました。そんな感じで3か月過ぎたあたりから、この事業も8年目を迎えた利用者さんに変化が！講師の方々が利用者一人一人の根本にあるダンスが好きだという想いを上手に引き出してくださり、バラバラだったダンスが一つになってきました。今までのヤミーダンスさんから引き継いだダンス愛をベースに、今回『旅行』をテーマに、朝日平成園らしいダンス作品を作り上げました。昨年に続きコロナ禍の中、満足いくレッスンが出来ない状況ではありましたが、スタッフ一同これからも利用者様の楽しい笑顔の華を咲かせる手助けをしてまいります。

いろは / 岡 実樹

「好きに遊んでいいよ」と言われたら何をしたらいいかわからない。遊ぶための道具がないと遊べない。遊びにも正解不正解を求めてしまう。周りの反応を伺いながら、そろそろと遊ぶ。初めはそんな様子だった子どもたち。そんな子どもたちの表情がアートリンクの回数を重ねるごとにどんどん柔らかく、眩しく輝くようになっていきました。カラーージュ作りでは、自分の好きなことや物を存分に表現することができました。「こうやったらもっとおもしろいかもしれない」と推測したり、いろいろなアイディアを試したり、ストーリーを思い描いたりしながら、自由な自分の世界に没入している様子が随所に見られ、今回のカタタンとの出会いを通じ、みんながそれぞれ自分の中にある「楽しさの種」を見つけることが出来たように思います。「楽しさの種」がこれからもっと大きく育ちますように。子どもの「成長する力」を信じて、私たち大人も笑顔で見守っていききたいと思います。

ばだいじゅ / 福家 有加

今年で2年目の活動でしたが、まだまだコロナ禍での生活を送る中での唯一の外部活動でした。幸い、月に1回のアートリンクは12回実施できました。毎回コンセプトの違う作品で、利用者様だけでなく職員も毎回興味津々で待ち遠しかったです。ある日は、色んな形の木片に色を塗ったりくっ付けたり、またある日は、葉っぱに色を塗ったり、貼り付けたり、出来上がった作品に利用者様も誇らしげです。アートリンクの時間は利用者様の集中力、発想力、毎回感動の連続です。十人十色の作品が出来上がります。今回5月から活動に参加している利用者様が最初、作品作りに不安そうな場面で千葉先生から「この色はどうか、こうしてみてはどうか」と優しく声をかけていただき、最初の不安がなくなり、今では一番得意な活動になりました。この活動を通じて千葉先生との交流、色々な経験、感動に感謝でいっぱいです。これからもよろしく願います。

サン / 前田 七代

アートリンクとは何ぞや。サンがアートリンク事業に参加して5年。タイル、紙粘土、色紙、絵の具、色鉛筆など、いろいろな道具をフル装置。千葉先生の旗のもと、みんな違って・・・当たり前。好きなように自由に活動している利用者さんたちの「この人らしい！」や「ええっ、この人が？」の作品を見て、彼らの知らなかった一面に驚かされる日々です。『点が動く」と線になる』彼らが引くこの線の先がどこへ行くのか。交わって離れて、それからそれから・・・わくわくドキドキの形や色から目が離せない。好きなように自由に表現するって、実はすごく難しいことだと思っています。月に2回のアートリンクは利用者さんたちにとって、それにチャレンジできる貴重な時間なのでしょう。アートリンクとは何ぞや。小さい声であいさつ。「こんにちは、会えてうれしいです」

ウインドヒル / 和田 真由美

「with コロナ」の中で開催のアートリンク事業。世間一般では行動制限のない生活を送っています。福祉施設では引き続き感染予防対策を行いながら、普段と変わらない、当たり前前の生活が提供できるよう常に配慮していました。「コロナ」という言葉が生活の一部になって早3年になります。「コロナ」の影響で、利用者の皆さんには、まだ突然の予定変更から混乱や不安は繰り返し起こっています。このような毎日でも、アートリンクや千葉さんと過ごす時間は、利用者の皆さんに楽しさと安らぎ、躍動の場を提供してくれています。千葉さんと出会い9年になります。「次は何をしてくれるんだろう」言葉では伝えられない気持ちや思いが伝わっているのでしょう。お互いに応えているような関係性も見受けられます。又、利用者の描いた文字や模様が千葉さんのオリジナル「YAGULT+」で一点物の鞆に仕上がりました。新たな利用者の活躍の場、知ってもらふ機会を作ってくれました。来年度はいよいよ10周年を迎えます。記念の年は、更なる飛躍になると思います。

あゆみ園 / 猪熊 陽子

利用者さんたちの感性とオリジナル性が光るアートの時間！！今年度は「福祉施設での創作活動は初めて」と目を輝かせながら、毎回新たな素材を提供して下さる南口先生をお迎えしました。職員：「テーマは何ですか？」先生：「え・・・何にしましょうかー」そこで利用者さんからのレスポンスが「海！」素材からの自発的な発想をもとに作品が彩られ、そして膨らんでいく、きっとそれがアートの理想形。活動後の利用者さんたちのちょっぴり上気した顔やいつもより心なしか大きくなった瞳、そして、自分たちの作品を発表するときの誇らしげな表情に、ほのぼのとした心温まる私たちなのです。



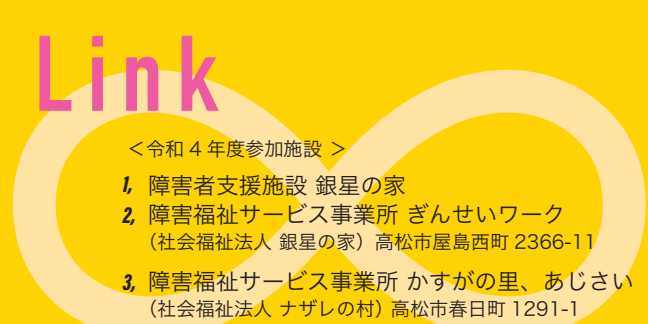
銀星の家 / 森脇 妙子

銀星の家では、高松先生の御指導のもと、アートリンク事業に参加させていただいております。早いもので今年で6年目を迎えます。利用者の皆さんは月に2回、主に絵画の制作に取り組んでいます。毎回とても楽しみにしており、先生と共に集中して取り組んでおられます。完成された作品は、利用者の皆さんの個性をもとに多様な表現をされたものばかりで毎回驚かされます。銀星の家では、これらの作品を基にカレンダーを作成しております。地域の方々に、カレンダーを通して障がい者に対する理解や支援が少しでも進めばと思っております。またアートリンク事業によって、利用者の皆さんがアートに取り組むことは様々な効果があります。趣味として、生きがいとして、芸術活動することにより生活に輝きが生まれます。才能の発見と、その才能を伸ばし、目標意識を持つきっかけの場となっており、今後も継続して取り組んでいきたいと思っております。

ぎんせいワーク / 安岡 駿

今年度もコロナ禍で思うように行動ができない状況が続きましたが、利用者の皆さんはART LINK 事業をとっても楽しみにしております。月2回の限られた時間の中ではありますが、高松先生の適切な言葉かけによって利用者の皆さんの個性や世界観が画用紙やキャンパスにどんどん現れてくるのです。Wonder！な瞬間であり Amazing！の連続です。絵画だけでなく、粘土などを使って表現する方もいます。誰もが表現者になれるのがART LINK であり、多様性を感じることもできる場でもあります。創造性のリミッターを解除して、彼らが紡ぎだした作品をどうぞご覧ください。





<令和4年度参加施設>

- 1. 障害者支援施設 銀星の家
- 2. 障害福祉サービス事業所 ぎんせいワーク
(社会福祉法人 銀星の家) 高松市屋島西町 2366-11
- 3. 障害福祉サービス事業所 かすがの里、あじさい
(社会福祉法人 ナザレの村) 高松市春日町 1291-1
- 4. 障害福祉サービス事業所 ワークプラザ・たんぼぼ
(社会福祉法人 たんぼぼの会) 高松市成合町 1491-1
- 5. 障害福祉サービス事業所 ほのぼのワークハウス
(特定非営利活動法人 ほのぼのワークハウス) 高松市牟礼町原 765
- 6. 障害者支援施設 ウインドヒル
(社会福祉法人 ポム・ド・パン) 高松市三谷町 3851
- 7. 障害福祉サービス事業所 朝日平成園
(社会福祉法人 朝日園) 高松市前田東町 585-21
- 8. 障害福祉サービス事業所 クローバーハウスこがも
(社会福祉法人 こがも福祉会) 高松市香南町横井 551-1
- 9. 障害福祉サービス事業所 たんぼぼの家
(社会福祉法人 香川県手をつなぐ育成会) 高松市田村町 390-1
- 10. 障害福祉サービス事業所 あゆみ園
(社会福祉法人 香川県手をつなぐ育成会) 高松市勅使町 398-18
- 11. 障害福祉サービス事業所 スマイルハートあすみ
(社会福祉法人 明日実会) 高松市多肥上町 18-1
- 12. 障害福祉サービス事業所 サン
(社会福祉法人 大樹福祉会) 高松市春日町 813-10
- 13. 障害福祉サービス事業所 ミルキーウェイ
(社会福祉法人 銀河の会) 高松市三谷町 3518-16
- 14. 障害福祉サービス事業所 クリエイティブハウス パンジーV
(社会福祉法人 創思苑) 高松市香西南町 518-1
- 15. 多機能型事業所 ぼだいじゅ
(社会福祉法人 竜雲学園) 高松市仏生山町甲 3207-2
- 16. 児童発達支援・放課後等デイサービス いろは
(運営会社 株式会社オフィス岡) 香川県高松市鹿角町 353-3

<参加アーティスト>

- | | |
|--------|-------------------|
| アオイアツシ | AOI Atsushi |
| 岩本 象一 | IWAMOTO Shoichi |
| カタタチサト | KATATA Chisato |
| 高松 明日香 | TAKAMATSU Asuka |
| 千葉 尚実 | CHIBA Naomi |
| 平川 めぐみ | HIRAKAWA Megumi |
| 三木 優希 | MIKI Yuki |
| 南口 恵理 | MINAMIGUCHI Eri |
| 山端 篤史 | YAMABERI Atsushi |
| 渡邊 和三郎 | WATANABE Wasaburo |

発行日	2023 年 2 月 22 日
発行所	高松市健康福祉局 障がい福祉課 〒760-8571 香川県高松市番町一丁目 8 番 15 号 TEL：087-839-2333 FAX：087-821-0086
制作	NPO 法人ハートアートリンク 〒700-0982 岡山県岡山市北区中島田町二丁目 5 番 22-102 号
編集	Web:heartartlink.org 田野 智子 TANO Tomoko
デザイン	三木 裕紀 MIKI Hironori



それぞれの日常に、アートの要素が加わると。
When you add the element of art to your daily life.



- ◎ 高松市役所
- ① 銀星の家
- ② ぎんせいワーク
- ③ かすがの里、あじさい
- ④ ワークプラザ・たんぼぼ
- ⑤ ほのぼのワークハウス
- ⑥ ウインドヒル
- ⑦ 朝日平成園
- ⑧ クローバーハウスこがも
- ⑨ たんぼぼの家
- ⑩ あゆみ園
- ⑪ スマイルハートあすみ
- ⑫ サン
- ⑬ ミルキーウェイ
- ⑭ パンジーV
- ⑮ ぼだいじゅ
- ⑯ いろは